

情報共有

※ 本店 AMU7 概要

(4枚)

官邸班 ← プレス対応チーム
・HWA班

東京電力 株式会社

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時: 平成 23 年 5 月 7 日 (土) 11:00~11:45

場所: 東京電力本館 3 階 AB 会議室

先方: 記者約 40 名 (カメラ 4 台)

当方: 原子力立地本部

原子力設備管理部

柏崎刈羽原子力発電所

本店広報部

配布資料:

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて (5月7日午前9時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (5月7日6:00現在)
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 他
- ・ 福島第二原子力発電所モニタリングによる計測状況
- ・ 福島第一原子力発電所 1~3号機原子炉圧力容器周辺温度 [°C]
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (5/6 現在)
- ・ 福島第一サーベイマップ (5月6日17:00、4月12日9:40)
- ・ γ線核種分析結果サンプル (5月4日)
- ・ 1号機R/B内空气中放射性物質濃度推移

質疑:

Q. 1号機の空気中の濃度推移について、直近の3時18分の具体的な数値と最高値である9時44分の数値を確認させていただきたい。

A. 3時18分は、ヨウ素 131: $5.1 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 134: $1.0 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137: $1.1 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$ 。

9時44分は、ヨウ素 131: $1.2 \times 10^{-2} \text{Bq/m}^3$ 、セシウム 134: $3.8 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137: $4.3 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ 。

Q. 局所排風機によるヨウ素除去効果として、運転開始 30 時間後に $2.6 \times 10^{-2} \text{Bq/m}^3$ と試算していたが、これとの違いは。

A. ロボットの測定結果を初期値として、局所排風機の性能から、30 時間後に $2.6 \times 10^{-2} \text{Bq/m}^3$ という数値に落ち着くとみていた。初期値のばらつきや局所排風機を動かした際に、建屋内の空気がある程度攪拌された結果、ダスト濃度が上昇したと思われる。現在は目標としている 10^{-2} オーダーを下回っているが、低下傾向が続いており、できるだけ濃度を下げるために、本日は継続

運転予定。夜間を含めて、本日は二重扉を開けて中に入る予定はない。

Q. 原子炉建屋内の空気中の濃度限度は下がったのか。

A. 空気中の濃度限度は全面マスクなしでこの場所で1年間作業した場合に、年間摂取限度である50mSv以内とする濃度限度であるが、セシウム134が 1.0×10^{-3} Bq/cm³という値の中では全面マスクによって作業する予定である。

Q. ヨウ素の下がり幅が小さい理由は。

A. ダストの状況にもよるが、単一の核種のみを評価するようなことはしておらず、ヨウ素、セシウムをあわせて下げていく必要があると考えている。

Q. 15時18分の初期値の数値を教えてください。

A. ヨウ素 131 : 2.5×10^{-3} Bq/cm³、セシウム 134 : 1.1×10^{-3} Bq/cm³、セシウム 137 : 1.2×10^{-3} Bq/cm³

Q. 明日の原子炉建屋内での作業の段取りはどうなっているか。

A. 詳細な時刻等は決まっていない。具体的な作業内容については確認させていただく。

Q. 3号機の注水を、給水ラインからとすることで、水漏れはなくなるのか。

A. 炉心スプレイ系を経由して注水しているが、途中で分岐していることもあり、実態として水が届いていない可能性があり、温度上昇の原因の一つと考えている。給水ラインへ切り替えることにより、確実に炉内へ注水できるのではないかと。

Q. 2号機の立坑から集中廃棄物処理施設への移送は本日のいつまで停止するのか。

A. 16時頃までを目途に移送を停止する。それまでに3号機の給水ラインの状況調査や雰囲気線量の測定を行う。なお、本日給水ラインへ切り替えるものではない。

Q. 2, 3号機の冷却に向けた作業についてはどうか。

A. 2号機はまだはっきりとしためどは立っておらず、建屋内の湿分をどう処理するかを検討中。3号機は温度上昇が見られており、注水を給水ラインに切り替えることを検討しているところ。工程表に対しての進捗状況についてははっきりと確定したものはないが、今後、何らかの評価をして参りたい。

Q. 局所排風機の効果で濃度が下がっていると見ているか。

A. その通り。起動当初、濃度が上昇したのも局所排風機による建屋内の空気が攪拌された影響と考えており、濃度低減も局所排風機によるものと考えている。

Q. ダストサンプリングは継続するのか。

A. その通り。二重扉を開放するまで、ダストサンプリングを継続し、その後、建屋内に入る際に雰囲気線量を測定していく。また明日以降、二重扉を解放した際に周辺への影響調査も行う。

Q. 1, 3号機はRPVの温度上昇に対し、S/Cの温度上昇がないが、どのように見ているか。

A. 基本的にはS/Cの方が容量が大きいことや、実際はそれほど蒸気の霧が無いのではと考えている。

Q. D/WからS/Cの弁はどうなっているのか。

A. まだ分かっていない。

Q. 3号機の炉心スプレイ系から圧力容器へ水が入っていないことがわかったのはいつ頃か。

A. 数日前から圧力容器周辺の温度が上昇傾向にあり、その頃から、水がどこかへ抜けているのではと考えたもの。

Q. サーベイマップの線量の推移から何か判明することはあるか。また3号機南の落下ガラスの表面線量が300mSvだが、ぞう1号の下にあったものなのか。

A. 全体の傾向としてガラスの撤去が進んでいることにより、全体の雰囲気線量は低下していると考えている。1号機側の高線量のガラスも撤去できれば全体の雰囲気が下がってくると思われる。ご指摘のとおり、3号機南の落下ガラスはぞう1号があった場所だと思うが詳細は確認させていただく。

Q. 雨が降ると水たまりが出来て周辺線量が高くなると思うが、その処理はどうするのか。

A. 水たまりはできるが、最終的には地面に染みこみ、サブドレンで回収される。なお、雨の日は基本的に屋外の作業をしない予定であり、高線量の水たまりが作業の支障となることはないのではないか。

Q. 1号機冠水に向け 6 m^3 から 8 m^3 に増やしているが、現時点の傾向を評価してほしい。

A. 水位に関しては依然として不明だが、温度や圧量は徐々に下がってきている。 10 m^3 と比べて、 8 m^3 に見合った下がり方ではないか。現時点で下がりすぎるといってもないので、 8 m^3 で継続していく。 10 m^3 の時よりも下がり方は遅いが、 8 m^3 に見合った下がり方だと思う。現時点では下がりすぎるといふ傾向でもないので、このまま継続していく。

Q. サンプリングの際には局所排風機は止めているのか。

A. 数時間おきにサンプリングを行うが、4台中、サンプリングする機器のみを停止し、他は継続起動である。

Q. 明日のサンプリング結果の濃度が現状と変わらなくても、内部に入る計画は変わらないのか。

A. 現時点での濃度でも全面マスク着用で入れると考えているが、本日、さらに1日局所排風機を稼働させることで、さらに濃度は低下すると思う。

Q. 外気の濃度はどの程度か。

A. 距離が異なることから参考情報ではあるが、福島第一西門で揮発性と粒子状のヨウ素を計測しており、 2.0×10^{-6} 程度の濃度を計測している。

Q. 二重扉開放する際は、事前に発表するという理解でいいか。

A. 確認のうえ午後の会見でお知らせさせていただく。

Q. マスクなしで作業できる限界値とはそれぞれの核種が単独で存在した場合を指すか。

A. その通り。

Q. 5号機と6号機のタービン建屋と原子炉建屋の水位のデータはあるか。

A. 確認させていただく。

以上

情報共有

※ 本店 18時47分メモ

高野班
HISA班

← プレスセンター

(4枚)

本店レク 議事メモ

日時：平成 23 年 5 月 7 日 (火) 18:00~19:00

場所：東京電力本店 3 階 A B 会議室

先方：記者約 40 名 (カメラ 5 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

柏崎刈羽原子力発電所 第一運転管理部

広報部

配付資料

- ・福島第一原子力発電所の状況
- ・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について (第四十三報)
- ・福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について (第四十五報)
- ・福島第一原子力発電所 2 号機取水口付近からの放射性物質を含む液体の海への流出について (続報 33)
- ・福島第一原子力発電所タービン建屋付近のサブドレンからの放射性物質の検出について
- ・茨城県沖合海域にて採取した海水の放射性物質の核種分析結果について
- ・福島第一原子力発電所プラント関連パラメータ (水位・圧力・温度等のデータ)
- ・福島第一原子力発電所 1~3 号機プラント状況
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 他
- ・福島第二原子力発電所モニタリングによる計測状況

より、プラント状況、配布資料の説明を実施。
(明日午前中の二重扉の開は無いことをお伝えした)

質疑：

Q. 1号機の二重扉開については、明日の午前中は実施しないとのことだが、保安院への報告等のスケジュールや明日の予定を教えてください。

A. 実際に報告書を提出させていただいた保安員さんの評価が残っていることから一概に明日実施できるとは申し上げられないが、放射能レベルからみると、明日の午後には着手できるのではないかと考えている。保安院への報告書の提出については引き続きサンプリングを行っており、そうした結果を見た上で報告書を提出したいと考えており、今晚か明日の午前中となるかは未定。

Q. サンプリングの最新データはあるか。

A. お渡しした 15 時の値が最新値であったが、その後は 6 時間後のデータになると思われ、明日の午前中には値をお示しできると思う。

Q. 移送を 16 時頃まで移送を止めて作業をしたとのことだが、具体的な作業内容や注水ライン切り替えに向けたスケジュールは。

A. 注水した際に、給水ポンプへ水が流れ込むのを防ぐためにタービン駆動の給水ポンプの出口弁の閉操作を実施している。こうした作業を進めながら、来週後半を目途に給水ラインからの注水を実施したいと考えている。

Q. 3 日前に示された工程表では、明日には作業員が入り線量を計測や配管を実施するような工程になっているが、実態として明日はどうか。

A. 現在、原子炉建屋を解放するにあたり、保安院への報告や、万が一環境へ放射性物質を出すことがないように、慎重に進めているところ。二重扉を開ける時間によっては、作業は翌日とする場合や引き続き作業に着手する可能性もある。

Q. 換気はいつ頃まで行うのか。

A. 局所排風機の運転は、二重扉開放後は基本的に行わない予定。

Q. 以前示された工程では明日から RHR の代替冷却設備の 2 次系設置工事が明日から始まるとあったが、進捗状況についてどうか。

A. 明日からは準備工事として現場確認等を行うと聞いている。設置機材を設置するのははまだ時間がかかるのではないかと。

Q. 二重扉を開けた後、排風機はどうするのか。

A. いったん片づけることになる。

Q. 当初排風機で 1/20 程度にしたいとのことだったが、どうなっているか。

A. 初期値との比較だが、現時点で計測しているのは 10^3 のオーダーであることから、当初想定しているレベルまで下がってきていると考えている。

Q. 地元自治体への説明は既に終わらせているとの発表が保安院であったが、事実関係は。

A. 今の状況を説明していると思うが、どのような内容を説明しているかは確認させていただきたい。

Q. 放出される放射能に関する評価について、既に周辺市町村へ説明されているとのことなのだが。

A. 今回の放出については放出前に福島県に説明していくことになる。

Q. 中部電力浜岡原子力が停止要請を受けているが、実際に浜岡原子力が停止した場合、東電へ需給の影響は出るのか。

A. 地震後、電力が不足した際には F C 経由で 100 万 kW の電力の融通を受けて

いる実績はある。浜岡原子力が停止となった場合、西側の電力会社と相談させていただきたい。

Q. 各電力会社からの融通の内訳を教えてください。

A. 今夏の見通しについては西側の電力会社から 100 万 kW と見込んでいるが現時点では何とも言えない。また、直近 1 週間で西側の電力会社から融通を受けたという実績はあるが、詳細内訳については相手先もあるので回答を差し控えていただく。

Q. 他電力から融通を受ける際の条件はあるのか。

A. その都度、他電力の状況も踏まえ、相談させていただいている。

Q. 2F は廃炉、もしくは長期運転停止すべきとの報道があるがどうか。

A. 現時点では運転再開や廃炉について検討している段階ではない。津波対策や緊急対応の指示に対する対応・準備を進めている段階である。

Q. 政府から長期停止を検討するような話はあったのか。

A. 聞いていない。

Q. 1号機ダスト分析の空気はどこをサンプリングしているのか。

A. R/B 北側 1 階フロアから局所排風機で吸気している。

Q. 障害物などもあるだろうから、他の箇所からも吸気すべきではないか。

A. 階段室も空いており、それなりに換気機能はできているのではと考えている。また、長時間の吸気により建屋内の空気を吸えているのではないかと考えている。

Q. 核種分析の結果について、濃度限度の倍率が核種毎に出ているが、すべて合計した形での表記はできないのか。

A. 「2種類以上の核種がある場合はそれぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する」と注書きしている。

Q. サーベイマップによるとコンクリートポンプ車(ぞう 1 号)があった 3 号機南側に 300mSv/h のガラがあるが、詳細を教えてください。

A. 当該コンクリートポンプ車の下にあったガラと思われる。

Q. コンクリートポンプ車で操作等に従事していた人への安全性は大丈夫だったのか。

A. コンクリートポンプ車そのものが遮へいとなっていた。また、ガラ自体の表面線量は 300mSv/h であるが、付近の空間線量は 20~30mSv 程度であった。

- Q. コンクリートポンプ車が当該場所に入る前に付近の線量測定はしているのか。
A. していると思うがどの時点からガラが落下したかは不明である。
- Q. ぞう1号は遠隔操作するとの話があったが、進捗状況は。
A. 52メートル級のコンクリートポンプ車は無人化の改造工事を5月中旬まで実施する予定。62メートル級のコンクリートポンプ車(ぞう)は無人化の改造工事は終わっているが、現在、遮へい板を付けているところ。5月中旬頃現地に入ってくる予定。
- Q. NISAから事故後の運転状況について指示文書が出ているが既に報告済みか。
A. 現場のチャートが汚染されているので一つ一つスキャナを掛けているところ。また、計算機のデータも復旧しており、内部のHDデータを読み込んでいるところ。近々公表したいと考えている。
- Q. 2号機トレンチから集中廃棄物処理施設への移送再開状況は。
A. 16:02に移送再開している。
- Q. 3号機の給水ラインの注入切り替えはいつ頃予定しているか。
A. 連休明けに仮設ポンプの準備が整う予定。
- Q. メガフロートの状況は。
A. 5/2までにリーク確認、150トンクレーンの取り付け、内面塗装等が終わり、現在、出港準備中。5/10以降に出航予定である。
- Q. 2号機ピットの分析等はヨウ素セシウムのみだが、他の核種も検出される可能性は有るのか。
A. バリウムやランタンなどの核種が出てくる可能性がある。
- Q. 公表資料内に全体の総和を明示いただきたい。また、サブドレンの分析結果についても倍率結果を記載願いたい。
A. サブドレンは敷地の中でのことなので、どのようにお知らせするかは検討させていただきます。
- Q. 3号機のRPV温度について、落ち着き始めた要因として考えられることは。
A. 流量を増大させたことでその効果が出てきたものではないかと考えている。流量を増大させてから温度が反応して伝わるまで一定の時間がかかるため、増加させてから変化が出るまで時間がかかったのではないかと考えている。

以上